

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 9月 14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171000326		
法人名	有限会社 アフターケア		
事業所名	グループホーム ペチカの家		
所在地	〒069-0813 江別市野幌町18番地3 (電 話) 011-382-3319		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年8月20日	評価確定日	平成21年9月14日

## 【情報提供票より】 (平成21年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 9 月 20 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 5人, 非常勤 2 人, 常勤換算3.84人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ～ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000円(11月～4月30,000円)		
敷 金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 470 円
	夕食	円	おやつ 込み 円
	または1日当たり 1,470 円		

### (4) 利用者の概要 ( 7月 1日現在 )

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	名	要介護2	1 名
要介護3	8 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.6 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	江別市立病院、平賀内科クリニック、野幌病院、野幌たちばな病院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は大型ショッピングセンターに隣接し利便性が良く、住宅地に位置するため静かな環境も併せ持っている。広い敷地に家庭菜園や果樹、中庭のある民家改造型の建物である。ホームの名称の由来となっているペチカがホーム全体を柔らかな暖かさで包み、利用者は家庭的なケアのもと穏やかな雰囲気与生活を送っている。看護師資格を持つ管理者のもと医療と連携を取りながら、利用者の健康と能力の維持に当たっている。中でも安全で美味しい食事の提供による食べる楽しみと体力維持の取り組みは利用者から好評を得ている。今後は、事業所が蓄積してきた様々なノウハウや情報を地域に向かって発信していくことが検討されており、取り組みが期待されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では災害対策が課題とされていたが、地域の協力も得ながら職員全員で避難訓練を行っている。防災について運営推進会議で取り上げ、事業所として必要な対応について検討されている。職員が救急救命講習を受講するなど研修と訓練を行うことで備えを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが各項目に取り組み、それを持ち寄り検討を行っている。日々のケアを振り返る機会として捉え、実際に取り組んでいる内容やどのような思いを込めているのかがまとめられている。自己評価の取り組みを通じて更に質の高いケアの提供に役立てることが期待される。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、地域包括支援センター、町内会、自治会婦人部、利用者代表、家族などの参加がある。事業所の日々の様子やケアの提供などについての報告を行っている。外部評価の結果や防災対策などについて、それぞれの立場から意見を集め、地域との連携を深めるとともに事業所の体制作りや運営に活かしている。また、運営推進会議の中で事業所の持つ専門的知識を伝える取り組みが検討されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族とは日常的な報告や連絡を通じて信頼関係を大切にすることで意見や苦情を言いやすい雰囲気作りをし、職員の連携体制を構築することで苦情等の24時間対応を行っている。また、玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書で内部及び外部の相談窓口も明示されている。受け付けた意見等は会議で検討し、解決や再発防止に結びつける仕組みがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者が個別に町内会に参加するなど、地域の一員として利用者の状況を踏まえながら地域の行事の参加を行っている。また、事業所を地域に開放したり婦人部のボランティアの受け入れを行っており利用者との交流や事業所への理解を深める機会としている。避難訓練には地域からも参加をして、連携して安全確保ができるよう取り組んでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を定めるとともに、パンフレットにはどのような事業所を目指しているのかわかるよう指針が示されている。既に実践を行っている地域密着型サービスとしての理念も盛り込んでいくことが期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し、日ごろから管理者が理念とそこに込められた思いをケアの場面を通じて職員と共有することで事業所の目指す質の高いケアに向かって職員と一丸となって取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的な声を掛け合う関係はもちろん、自治会には利用者ごとに加入を行い、行事の参加を通じ地域の一員として受け入れられている。近隣からの野菜の差し入れを利用者とともに漬物にし、出来上がったものを配るなどの交流も継続的に行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、一人ひとりが日ごろのケアを振り返るという視点で自己評価項目に取り組み、記載した結果を持ち寄り検討が行われている。職員の評価項目への理解をより深めるため、評価を行った後も、よりよいケアに結びつける取り組みが検討されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年3回実施されている。事業所の様々な報告を行うとともに、参加者それぞれの立場から広く意見を集め、運営に活かしている。今後は事業所の持つ知識や専門性を発信する場としての活用も期待される。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	江別市の関係部署に利用者の通院状況などをこまめに報告するなど、日常的に連携を行っている。また、中学生の授業の一環として職場体験の受け入れを行い、事業所の地域密着型サービスとしての機能の活用を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ペチカの家」便りを発行し日ごろの暮らしぶりの報告を行っている。家族の来訪時に利用者の写真入り掲示物等も交え報告を行っている。通院報告はその都度特に詳しく行い、経過や服薬の内容と事業所での今後のケアの見通しなど踏み込んだ内容となっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口と対応方法を記載し、玄関に意見箱を設置している。受け付けた苦情等に対し会議を行い改善、報告する仕組みがある。事業所からの報告を緊密に行い、日ごろから信頼関係を結ぶことで意見を言いやすい雰囲気作りにも配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため、事業所内での異動は行われていない。新しい職員が入った場合は利用者が少しでも不安なく受け入れができるよう馴染みの職員と一緒に勤務になるように勤務体制の調整を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、それぞれの職員のケアに対する事業所の理念に基づいた共通認識と実践力を育てることを大切にし、事業所内で研修を行っている。外部で実施されている研修参加も職員の意欲を大切にしながら偏りがないように配慮して積極的に実施している。	○	個々の職員に応じて内部・外部研修の取り組みが行われている。導入された職員評価制度と合わせ、今後は更に研修後の報告や研修後に他の職員との情報の共有を行うことで職員全体の知識の向上とケアに対する理解を深める取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内のグループホーム代表者の集まりに参加し、情報交換と知識の研鑽を行い事業所の質の向上につなげている。また、グループホーム相互の施設を訪問することで人材の交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の特徴について説明を行い、利用者と家族の見学を行っている。時間が許す限りゆっくりとレクリエーションの様子や他の利用者の様子などを感じながら雰囲気にならなうようにしている。家族が宿泊することも可能で利用者の状況に合わせ柔軟に対応を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を一方的に介護される立場とせず能力と体調に合わせた役割を持ち、利用者の生活歴と知恵に学ぶ気持ちで支えあいの関係を築いている。事業所に掛かってきた電話に利用者が応答することもあるなど共同生活者として家庭的な雰囲気を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と接する際は、一人ひとりの個別性を大切にしながら話を聞いている。カンファレンスや連絡ノートを活用し、職員が把握した情報を集約している。その人らしさを尊重できるように思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに作成している。職員、看護師、介護支援専門員による情報収集を行いアセスメントとカンファレンスが実施されている。専門職だけではなく本人の思いと家族等の意見を盛り込んで介護計画を作成し、計画の説明を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者は日ごろのケアに関わっており、変化があった場合は速やかに対応するような体制がとられている。介護支援専門員と看護師等が課題を認めた場合は適切な判断のもとに家族や関係者の意見を交えて介護計画を変更する仕組みとなっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や利用者の希望に応じて外出の支援を行っている。利用者の家族が他の施設に入所している場合には、利用者を施設に連れて行ったり、家族の様子を利用者に伝え安心してもらうなどの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医への支援を行っている。事業所では、利用者の服薬する薬の管理・記録を行い、医療との連携と家族への報告を適切に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の段階から事業所の方針や事業所が出来ることなどを家族や本人に伝え、話し合いの機会を設けている。また、日ごろから通院の際の報告に力を入れており、利用者の状況を共有し、見通しを含めて意見を交換するなどきめ細かな対応が行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	礼節には特に重点を置いており尊厳を大切にされたケアは内部研修を通じて職員にも浸透している。個人情報の記録等は所定の場所で適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のカンファレンス時に利用者からの希望について話し合わせ、理美容への外出支援などの対応を行っている。利用者との「気持ちを出せる」信頼関係を大切に、職員の連携を行うことで柔軟に対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の大きな楽しみとして捉え、五感を刺激することで食欲を喚起し、健康増進に結び付けている。食事制限がある場合もさりげない工夫をし、利用者に不公平感を抱かせないように配慮している。利用者は食事の手伝いを通じ職員と支えあっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回から3回の入浴を行っている。リラックスして入浴できるよう好みの温度や時間に配慮している。時々には日帰りで温泉に出かけている。健康状態によって入浴できない場合は清拭を行い、清潔でさっぱりした気分になれるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や家庭菜園などの他、近隣からの野菜の差し入れを漬物にするなど、季節折々の楽しみと役割が持たれている。毎年、利用者、家族と職員と一緒に温泉旅行に出かけるなど家族も参加する取り組みが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつを中庭のベンチで食べたり、さくらんぼ狩りを行うなど一人ひとりの希望や体力に合わせて戸外で過ごす場面を設けている。その日の希望によって理美容に出かけたりショッピングセンターに出かけるなどの支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は行っていない。職員が「大切な人をお預かりしている」という意識を持ち、目配りを行っている。常に自分に置き換えて考え、無理強いせず希望に沿って一緒に外出するなどの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所として事故発生時マニュアルを作成し、地域の住民も交えた避難訓練を実施している。また災害時に職員が適切に行動できるよう救護や蘇生の講習を受講し防災意識を高めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や疾患に合わせて栄養バランスや水分摂取量に配慮している。美味しく食べることが健康維持につながるという考えから、一定の目安を設けて食べる意欲を第一にしている。個別の食事摂取の記録を行い必要な支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれ、室温や換気にも配慮されている。随所に花が飾られた利用者がともに過ごす広いダイニングや開放的なダイニングルームの他に、マッサージチェアでのんびり過ごすことができるスペースなどがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は本人が使い慣れた家具や仏壇などで思い思いに整えられている。利用者の身体状態に応じて模様替えのアドバイスや支援が行われ、快適に過ごすことができるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。